

## (2) 活用事例

アンケート調査及び訪問調査を行っていくなかで、週案の有効活用の取組を次の4つのカテゴリーに分類した。

### A 週案と自己評価の一体化による授業改善

- セルフチェックシートを活用した授業力向上の取組  
(君津市立周西小学校 館山市立富崎小学校)
- 授業力向上を目指し、週案に自己評価項目を設定した取組  
(匝瑳市立共興小学校)

### B パソコンを活用した効率的な週案の作成とその管理

- 週案と年間指導計画との連携を図っている取組  
(匝瑳市教育委員会・匝瑳市立栄小学校・匝瑳市立豊栄小学校)

### C 週案を学年経営・学校経営に生かすことを通じての授業改善

- 学年会での活用  
(習志野市立屋敷小学校)
- 週案の内容を保護者へ公開して理解・協力を得ている取組  
(船橋市立豊富小学校)

### D 週案を自身のポートフォリオとして活用することでの授業改善

- ファイリングシステムによる授業履歴の蓄積  
自己評価(自身の成長)業績評価への対応を視野に入れた取組  
(館山市立北条小学校)

## 1 週案と自己評価の一体化による授業改善

### ○セルフチェックシートを活用した授業力向上の取組 君津市立周西小学校

#### ①平成23年度基本情報

- ・学級数 24 ・児童数 657
- ・住所 君津市中野3-14-1

#### ②週案について

- 作成方法
  - ・パソコン(エクセル)で作成する。時数は自動計算される。
  - ・年間指導計画(1時間ごと)をエクセルで作成する。  
週案にカット&ペーストにより、貼り付けられるようにしている。
- 主な記載内容
  - ・行事予定 ・教科及び単元名及びめあて ・指導記録(反省)
  - ・実施時数(予定, 実施, 累計) ・セルフチェックシート(自己評価)
- 作成～提出～返却及び指導助言
  - ・学年会により学年行事の確認 ※この日は他の会議・部活を行わない。
  - ・教務主任より発行された週報を参考に作成を開始する。
  - ・提出 教務主任→教頭→校長→返却(その日のうちに返却する。)  
※教務主任は提出日は授業を持たず、午前中に全てを見る。  
管理職はコメントを入れて返却。必要に応じて授業参観・面談等を行う。

## ア 導入の経緯

### セルフチェックシートの活用

21年度より活用し、3年目になる。

初年度及び2年目は、授業力の自己評価及び改善を図る目的で南房総教育事務所作成のセルフチェックシートを週に1時間程度活用してきた。

23年度より、「活用力の育成」に重点を置き、思考・判断・表現活動の充実をめざし、セルフチェックシートを使うようになった。

## イ 内容及び活用方法

### セルフチェックシートについて

活用する力を高める「セルフチェックシート」			
月 日 ( )	年 組	指導者	
教科	単 元 名		
4：十分できた 3：概ねできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			
過程	評 価 項 目	自己評価	
導 入	導入でしっかりと問題意識を持たせましたか？ <観点例> ①本時の学習の手掛りとなる既習事項を確認した。 ②興味・関心や疑問を持つような資料を提示した。 ③子どもの疑問等を生かした学習問題を作った。	4・3・2・1	
	学習問題を解決するための方法を工夫しましたか？ <観点例> ①解決の見通しを持たせた。 ②解決に適した学習形態を工夫した。 ③解決に必要な資料を適切に活用した。	4・3・2・1	
展 開	考えを整理する場を設けましたか？ <観点例> ①考えを整理する時間を確保した。 ②ノート等を活用する指導をした。 ③記録・要約・説明・論述などの言語活動を取り入れた。	4・3・2・1	
	考えを深める場を設けましたか？ <観点例> ①自分の考えを分かりやすく説明する指導をした。 ②話し合い活動を取り入れた。 ③話し合い活動の中で、自分の考えを深める指導をした。	4・3・2・1	
	本時の学習のまとめをしましたか？ <観点例> ①学習したことが身に付いたかを確認した。 ②自己評価や相互評価などの評価活動を行った。 ③新たな問題を見出すなど、学習への関心や意欲を持たせた。	4・3・2・1	
ま と め			
(メモ)			

千葉県教育庁南房総教育事務所  
が作成・発行した授業の自己評価  
表である。

「導入～展開～まとめ」の各段  
階でめあてを達成するための観点  
が設定されている。授業者自身が  
自己評価することにより授業改善  
に役立てることができるチェック  
シートである。

千葉県教育庁南房総教育事務所  
ホームページ

(セルフチェックシート)

[http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/  
kj-nanbou/shidoushitsu/documents/  
self.pdf](http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-nanbou/shidoushitsu/documents/self.pdf)

### 作成から提出までの流れ

- ①週案作成の際「活用力の育成」を考え、セルフチェックシートで評価する授業を週案上にマーカーで囲む。(週1単位時間程度)
- ②週案と一緒に教務主任へ提出。
- ③管理職がマーカーで囲んだ授業を参観に来る場合もある。
- ④授業後、セルフチェックシートで自己評価し、週案にはさみこみ教務主任へ提出。
- ⑤教務主任が評価し、改善策などのコメントを入れて返却。



○項目2「学習問題を解決するための方法を工夫しましたか?」について

解決に必要な資料の活用は、2年生にとって自ら選び取ることが難しい。教師側から与えることがほとんどなので、徐々に自発的にできるように指導していきたい。

○項目3「考えを整理する場を設けましたか?」について

1日に1回は必ず全員が発言する機会をもうけ、言語活動の充実を図っている。

○項目4「考えを深める場を設けましたか?」について

意図的な指名計画のもとで話し合いを行うと共にどんな意見も受け止める態度を根付かせるよう努力している。考えを深めるためにも「書く」ことが有効である。ノートやワークシートを活用するようにしている。

○項目5「本時のまとめをしましたか?」について

私の授業のなかで、ここが最も足りていないことがわかってきた。学習内容の確認や、自己評価などを取り入れていくことが今後の課題である。

## 館山市立富崎小学校

<コーチングの手法を取り入れ、学校独自に改良した

セルフチェックシートを活用した授業改善>

①平成23年度基本情報

学級数 3 児童数 9 住所 館山市相浜282-1

②週案について

○作成方法

・パソコンまたは、手書きで作成する。

○主な記載内容

・行事予定 ・教科及び単元名及びめあて ・指導記録（反省）  
・実施時数（予定、実施、累計） ・セルフチェックシート（自己評価）

○作成～提出～返却及び指導

・教務主任が発行した週報を参考に作成を開始する。  
セルフチェックシートに記入する。

・提出 教務主任→教頭→校長→返却（その日のうちに返却する。）

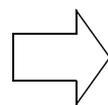
※ 管理職は、コメントを入れて返却。必要に応じて授業参観・面談等を行う。

## ア 導入の経緯

### 学校の実態から

- ・小規模校のため小集団による授業が常態化し集団思考が取り入れられない。（学級1名の所も）

- ・受け身の姿勢が目立つ。



「活用・共生・自立」を目指す

### 校内研修から

- ・テーマ 「自ら課題をもち、言語を活用する子どもの育成  
～プロジェクト学習とコーチングの考え方を取り入れた個別指導～」  
教科を絞らず、全教科領域で実施している。

- ・プロジェクト学習の実施

- ・コーチングの手法を生かす

教師の意識を変えるコミュニケーションスキル

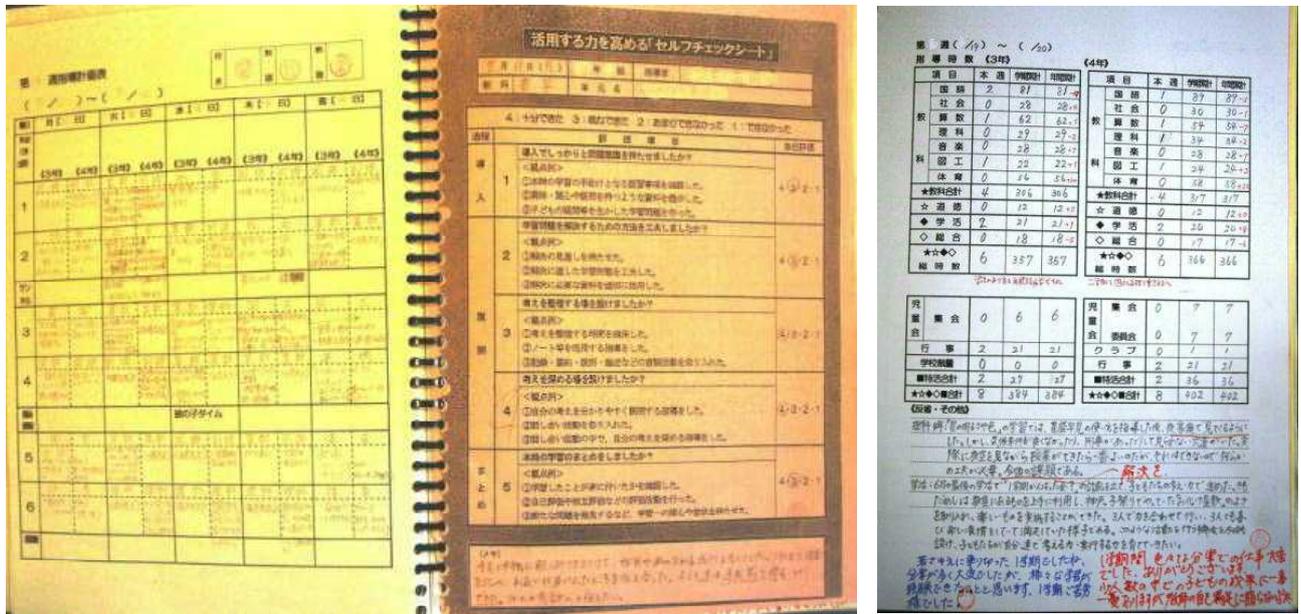
少ない児童数を生かす、教師による子どもとの対話を重視している。

### セルフチェックシート導入にあたり職員間での共通理解

コーチングを導入するにあたり、職員で校内研修を何回か持ち、コーチングの考え方

やコミュニケーションスキルを身につける研修を行った。その中で共通理解ができた。評価項目を作成する際に、職員との話し合いで検討していった。これにより、自分たちの作ったものという意識が生まれ、教員の意欲を喚起することができた。また、この研修を行うことで、日頃の職員室での会話の中で、コーチングについての評価観点を日常の子どもの姿に当てはめ、教師同士が自然と話をする場面が増えた。それらが教師のコーチングについての理解を深める要因となった。

イ 内容及び活用方法



＜実際の週案 左から 週予定、チェックシート、時数及び反省改善＞

フロンティア授業チェックシート（富崎小版）について

初めは南房総教育事務所発行の「セルフチェックシート」を活用していたが、富崎小学校独自の内容・形式に変更した。

○評価段階の変更

評価段階を①導入②展開③終末の3段階に分け、展開を更に「言語活動の設定」「思考する場の保障」「表現する場の工夫」の3つの場面に分け、評価項目を作成した。

- ・「導入」  
少人数のためゴールを明確化することで一人一人が課題を強く意識できる。
- ・「展開」  
言語活動の設定  
話す・聞く・読む・書く活動を意図的に取り入れたか。  
思考する場の保障  
思考の場、異なる考えに触れる場の設定      コーチング技法の利用  
表現する場の工夫  
考えを話す場、作品等を発表する場      価値が伝わる助言

- ・「終末」  
学習を振り返る場の設定      自己評価、相互評価、教師評価

＜改良点＞

- ・コーチングの観点を取り入れた。
- ・チェック欄を文頭につけ、評価項目にチェックを入れられるようにした。  
(特に効果的だった活動にチェックを入れる。)
- ・評価項目をみんなで研修し相談しながら作成することにより、評価項目が浸透し、積極的に授業に生かそうとする職員が出てきた。

## 作成から提出までの流れ

- ①教務主任が週報を発行
- ②週案作成  
(今週の反省・来週の予定・  
チェックシートで評価する  
授業の決定)
- ③提出～返却  
管理職の指導  
チェックシートに基づ  
く授業参観等

### フロンティア授業チェックシート

南房総教育事務所が作成したセルフチェックシートをコーチングの視点で改良して作成した学校独自のセルフチェックシート

## フロンティア授業チェックシート 富崎小学校

月	日 ( )	年	指導者
教科等	単元・題材		
4:十分できた 3:おおむねできた 2:あまりできなかった 1:できなかった			
	評価項目 (特に効果的だった活動にチェック□)	自己評価	
導入	<b>1 子どもの学習意欲を高めるような課題を、設定しましたか?</b> <input type="checkbox"/> 単元における本時の位置づけを確認した <input type="checkbox"/> 本時の学習のゴールを明確に示した <input type="checkbox"/> 思考を誘発するような資料等を活用した	4・3・2・1	
展開	<b>2 本時にふさわしい言語活動を効果的に設定しましたか?</b> <input type="checkbox"/> 話す・聞く活動 <input type="checkbox"/> 読む活動 (音読・読解) <input type="checkbox"/> 書く活動	4・3・2・1	
	<b>3 子どもに思考の場を保障したり、思考を促す指導法を工夫したりしましたか?</b> <input type="checkbox"/> ひとりで思考する場を設定した <input type="checkbox"/> 自分と異なる考えにふれる場を設定した <input type="checkbox"/> コーチングの技法を駆使して思考を深めた	4・3・2・1	
	<b>4 子どもの考えや作品等を、友達や教師に表現する場を工夫しましたか?</b> <input type="checkbox"/> 考え等を話す場を設定した <input type="checkbox"/> 作品等を発表する場を設定した <input type="checkbox"/> その価値が伝わるような助言をした	4・3・2・1	
終末	<b>5 次の学習への意欲と見通しを持たせるような学習を振り返る場を設定しましたか?</b> <input type="checkbox"/> 自己評価の場を設定した <input type="checkbox"/> 相互評価の場を設定した <input type="checkbox"/> 教師からの学習意欲を高める評価を与えた	4・3・2・1	
その他、授業を振り返ってメモしておきたいこと			

## ウ 成果について

- チェックシートにより二つの評価 (分析) を効果的に行うことができた。  
教師の授業傾向を連続的に見ることができ、課題に気づきやすくなったこと。
  - ・ 1時間の評価 各段階で狙っていたとおりの授業ができたか。(教師側)  
児童の理解や表現について計画通りできたのか(児童側)
  - ・ 連続的な評価 チェックシートをまとめて連続的に分析すると、自分の強みと改善の過程を客観的に理解できる。  
(いつも同じ評価が低い場合、高い場合。低い段階から伸びた場合。)
- 授業研究だけでなく日々の授業での授業改善について考えることができた。
- 教師間の共通理解により、コーチングの理解を深めることができた。  
※セルフチェックシートの評価観点を共有することにより実現
- コーチングの観点が教師間の合い言葉になっていった <観点の共有>
  - ・ 導入するにあたり、教員研修でコミュニケーションスキルや、具体的な子どもの姿について話し合った。
  - ・ チェックシートによる評価が始まってからもコーチングの観点で教師がどうだったか、子どもがどうだったかについて職員室で自然と話が出て語り合うようになった。(教師集団の成長)

## ○授業力向上を目指し、週案に自己評価項目を設定した取組 匠瑛市立共興小学校

- ①平成23年度基本情報  
学級数 8 児童 127 住所 匠瑛市東小笹1160
- ②週案について
- 作成方法
  - ・パソコン（エクセル）で作成する。時数は自動計算される。
- 主な記載内容
  - ・行事予定 ・教科及び単元名及び活動内容 ・月反省（週ごとには行わない。）
  - ・実施時数（予定，実施，累計） ・自己評価（週ごと，月ごと）
- 作成～提出～返却・指導
  - ・教務主任が発行した週報を参考に，作成を開始する。  
セルフチェックシートに記入する。
  - ・提出（隔週で提出 低学年，特別支援学級と高学年・専科）  
教務主任→教頭→校長→返却（その日のうちに返却する。）
- ※ コメントを入れて返却。必要に応じて授業参観・面談等を行う。

### ア 導入の経緯

- 授業を通して，教師の力量（授業力）を高めていくために，平成21年度より導入。  
以下の2つの資料を参考にして，

- ・『千葉教育』掲載「日常の授業評価（相互参観表）」  
生徒指導の機能を生かした自己評価  
①自己決定②自己存在感③共感的人間関係
- ・東京都教職員研修センター「学力向上を図るための指導に関する研究」  
授業力の6つの構成要素，OJT（On the Job Training の略）の考え方  
PDCAの検証サイクルへの対応

次のように改良した。

- ・評価項目が多く，毎週の授業評価にあわせて項目を絞った。
- ・生徒指導の機能を生かした自己評価
- ・授業力の要素を取り入れる。  
＜週の評価＞授業力4観点で評価  
意欲（2項目）・児童理解（7項目）・統率力（4項目）・指導技術（9項目）  
＜月の評価＞授業力6観点で評価  
意欲（2項目）・児童理解（7項目）・統率力（4項目）・指導技術（9項目）・  
教材解釈（4項目）・計画評価（5項目）
- ・月評価に目標申告を取り入れる。（学習指導・学級経営生徒指導・学校運営）
- ・週案の反省の記述をなくし，事務軽減を図った。  
（反省等がある場合は各時間のコマへ記載）

### イ 内容及び活用方法

#### 形式及び内容

- ・エクセルで作成 時数自動計算
- ・教科及び指導内容
- ・自己評価項目

努力項目を授業力4観点から1つずつ設定し、4段階評価を行う。

作成までの流れ

- ・隔週で提出（教員を2グループに分け交互に提出する。）
- ・提出 教務主任（時数確認）→教頭→校長→返却
- ・点検時に管理職の指導（自己評価について、教科指導、生徒指導、メンタルヘルス等）
- ・管理職の指導等を参考に次週の評価項目を決定する。

作成で職員が留意している点

- ・「選ぶ項目が偏らないように」「自らの能力開発につながるように」を意識し進めている。
- ・実践を振り返り4段階評価を行っている。4「かなり」、3「やや」、2「あまり」、1「まったく」で評価を行っている。
- ・担任は週全体で評価している教員が多い。
- ・評価項目を選ぶことで、授業への意識付け、重点化につながっている。  
(挨拶、めあて、板書計画、教材開発、地域の人材活用、児童への対応など)
- ・安全面への配慮を指導計画に取り入れるようにしている。

<週案と週評価>

自己評価 <生徒指導の機能を生かし、授業力をつけよう。>  
 <自己決定の場><自己存在感の場><共感的人間関係>  
 そう思う→4 やや思う→3 あまり思わない→2 思わない→1

授業力	診断努力項目	努力項目	自己評価
意欲	①学習のねらいを全ての児童に達成させようとしている。	①	4-3-2-1
児童理解	①一人一人の関心・意欲を把握している。	①	4-3-2-1
統率力	①一人一人の反応をとりえ、答えを授業に生かそうとしている。	①	4-3-2-1
指導技術	①授業の始めに学習のねらいを児童に明確に示している。	①	4-3-2-1

子ども達の学習環境は、非常に大事です。生徒は主体的に、興味・関心を持って取り組んでいます。子ども達の成長に、先生は全力でサポートしていきます。

・清掃が入った一週間だった。グリーン活動時には、花壇の整理や、残った花のプランターへの植え付けを一生懸命に頑張る児童が多く見られた。頑張ったことを褒めたことで、活動の進め方やコツについて他の児童に教えるための備わりの様子も見られた。

週の自己評価  
 授業力4要素から努力項目として、一項目ずつ選び4段階で評価を行う。



## ウ 成果及び課題

### 成果

- ・客観的な評価を積み重ねることで、年間を通して指導の成果と課題が把握できるようになっていく。
- ・その週の自身の指導方法や児童への接し方など振り返り、自分の足りない部分や弱点が明らかになっていく。
- ・学校評価の資料として活用することができる。教師一人一人の自己評価は、日々の実践と結びついているため、自己評価を学校全体の取組として集計し、学校関係者評価の資料としても活用できる。
- ・お互いの評価項目や評価基準を教師が話し合う機会を設けることで、同僚の実践から学ぶことができる。
- ・目標申告と日々の実践の整合性が生まれ、教師の能力開発、校内の人材育成、学校全体の教育力の向上につながる。

### 課題

- ・教師の中では、「自分の実践に満足していない。」という心理が働くため、「4」の評価がつきにくい傾向がある。
- ・自己評価の形骸化や評価のブレを防ぐため、評価項目の再検討、精選を図って、自らの実践に生きる評価としていきたい。
- ・評価項目が多い（細かい）ために、自己評価（4段階評価）がおおざっぱになってしまったり、毎週同じ項目が低く、改善が見られないというケースもある。その都度、管理職が励ましのコメントを入れ、弱点の克服を促している。

### 3校（周西小・富崎小・共興小）の取組からわかってきたこと

授業の定期的な自己評価は授業改善においては、とても重要なことである。

しかし、多くの学校では、自己評価の方法や観点、自己評価の際の基準などしっかりと確立したものがない場合が多かった。また、あったとしても教師に多くの負担を強い方法であったり、評価項目が多く難解であったりと、日常的な評価として根付かない現状があった。

しかし、紹介してきた3校の取組は日常的に機能しており、若手を中心に授業改善につながっていた。これも「方法・項目・PDCA（授業改善）サイクル」に裏打ちされた評価システムがしっかりと確立していたからだと考える。まとめると以下の6点である。

- ① 週案を介しての評価方法のため、従来の週案システムに組み込むことが容易となり、教師への負担を比較的軽くすることができた。
- ② 評価項目が授業の各段階、子どもへの対応、教材研究等にきちんと整理されており、評価していく上でバランスが良い。
- ③ 同じ観点で日常的に自己評価が行われるため、どのように改善していったらよいか短期的な評価だけでなく、長期的な評価や見通しを持つことができる。
- ④ 観点を全教員で共有することができるため、教員研修や教材研究を通じた日常的な授業改善について、同じ視点で話し合うことができ、情報や成果を共有することもできる。
- ⑤ 管理職の指導についても、自己評価に利用している項目をもとに評価することができるため、管理職は的確な評価を行い、授業者に対してわかりやすい指導を行うことができる。
- ⑥ 評価項目については、学校の重点施策や研修、個人のめあてによって、項目を変えるなど工夫し行うことができる。